



椋本673 存仁寺

ほうきさん 2015年 9月

煩惱の

嵐の中にも

念仏において

本願の

呼び声が

聞こえてくる

「正親含英」

— 願いは 今も —



実りの秋の季節へと移り変わっていきます。「実るほど首を垂れる稲穂かな」とうたわれるように、私たちもどれほど実りある人生を送って来たでしょうか。阿弥陀如来の本願力に遇うこと、智慧と慈悲に出遇うことは「申し訳ないこと」「ありがたいこと」「おかげさま」「おはずかしいこと」と頭がさがっていく生き方が生じてまいります。今年も、初盆をおつとめさせていただきました。懐かしい方々の生前のご遺徳を偲び、あらためて想いを深めさせていただきました。また、八月十六日の灯籠送り・歓喜会法要では、様々のご事情もあり参拝できない方々もおられました。対象の総ての方々の法名をあげさせていただきました。お一人おひとり、この世に生を受け、それぞれの人生を歩まれたことです。様々なであい、別れがあったことでしょう。その人生の中で私たちは出会いをさせていた。人生の旅の中ほんの一端かもしれませんが、残された私たちにはその方への想い出の一頁が今も生き続けています。いえ、思い出だけではありません。八月二十三日は前住職釋尚見、七回忌法要をお勤めさせていただき、ご多用の中お差し繰り沢山の参拝がありました。調声くださいました光明寺ご住職さまは「法話で、私達は、お互いに無常の存在ですから、今日会えたからといっても



明日必ず会えるとはかぎりません。今から五十年ほど前私の父(光明寺前住)が住職を拝命した頃、父はいろいろと悩むことも多かったようでした。思い切ってそのことを大先輩である存仁寺前住さまにご相談いたしました。すると前住さまは優しくこう仰ったそうです。『そうかな、そうかな。いろいろと辛いことやな。なあ、お経さま(阿弥陀経)には、「池のなかの蓮華は、大きな車輪のごとし、青色には青光黄色には黄光、赤色には赤光、白色には白光ありて、微妙香潔なり」とお示しやんか。あんたはあんたの色でええんや』。このお話をいただいて、父はたいそう力強い思いをもったそうです。五十年経過しても折に触れて、繰り返し私に話をしてくれます。私も、十四年前に光明寺に入寺のご縁をいただき、住職を拝命、十年が経ちます。今も自身悩み多きことばかりです。そのときに私は、前住さまが父に語って下さったこの話を思い出すのです。今やお浄土の方となられた前住さまのお姿を、わたしの眼で拝見することとはかなわなくなりましたが、前住さまの願いは今も父や、私を照らしておいでだと味わいます。その方の「思い」や「願い」にであうことが、いつでも・どこでもと通じる

「であい」なのでしょう。親鸞さまは「出遇う」と示されました。すべての人を照らしてやまないのが、阿弥陀さまの願い南無阿弥陀仏です。」とお話し下さいました。今、現に、ここ、この私に、届いて下さっているはたらきなのです。 住職

9月の行事

1 日(火) 6 時 30 分 おあさじ

2 日(水) 19 時 30 分 コーラス

16 日(水) 6 時 30 分 おあさじ

19 日(土) 19 時 仏教壮年会例会

24 日(木) 13 時 30 分 無量寿会例会



20 日～26 日 秋季彼岸

28 日(月) 10 時 日曜学校(代休により)

子どもの集い

10月の行事

1 日(木) 6 時 30 分 おあさじ

7 日(水) 19 時 30 分 コーラス

12 日(月)～ 13 日(火)秋季永代経法要

13 日(火) 正覚寺様親睦の会

16 日(金) 6 時 30 分 おあさじ

18 日(日) 10 時 日曜学校



秋の法座 〈秋季永代経法要〉

10 月 12 日(月) 午後 1 時 30 分

10 月 13 日(火) 午後 1 時 30 分

法話 大阪 法栄寺 小林顯英師

宗派・教区・鈴鹿組関連

9 月 20 日(日) 鈴鹿組第 19 回門徒推進員養成



連続研修会 養宗寺

「真実の宗教」占いを気にしますか

9 月 18 日(金) 千鳥ヶ淵全戦没者追悼法要

9 月 26 日(土) 13 時 30 分・18 時 30 分

27 日(日) 13 時 30 分 津市丸の内

正覚寺様永代経法要

大阪明教寺 不死川 浄師

10 月 4 日(日) 西願寺 二十五日講法要

岐阜光宗寺 辻良尚師

10 月 14 日(水) 鈴鹿組門徒総代会名古屋別院奉仕団

10 月 19(月)～20 日(火) 鈴鹿組仏教婦人会

本山念仏奉仕団

千鳥ヶ淵全戦没者追悼法要では、宗門として恒久平和への願いを新たにすため「平和宣言」を行い、さらに「平和の鐘」を撞きます。平和への決意を、日本国内外に響かせ届けたいという願いのもとはじめられました。各寺におきましても、法要と同時刻(13:15～13:20)に、梵鐘(または喚鐘など)を撞いていただきますようお願いいたします。 浄土真宗本

「すべての者は暴力におびえ、すべての者は死をおそれる。己が身をひきくらべて、殺してはならぬ、殺さしめてはならぬ。」(129 偈)

「すべての者は暴力におびえる。すべての(生きもの)にとって生命は愛(いと)しい。己が身にひきくらべて、殺してはならぬ。殺さしめてはならぬ。」(130 偈)

「煩惱の嵐の中にも 念仏において
本願の呼び声が 聞こえてくる」
煩惱の嵐に吹かれてここまで来たことは紛れもない事実です。思いどうりにいかないこととわかっていても、何とかその壁を乗り越えようと励む日々です。その多くは自身の欲望の満足のためといっても差異はありません。浅ましい、お恥ずかしいと知りながら、そこから抜け出そうともせず、さらにもっとよくなる手だてがあるのではと、迷路に踏み込む私です。妙好人浅原才さんは「あさましや あめのふるほど つみがふる 六字のうえに ふるつみは つみはふれどもみなきえる なむあみだふにてらされて」と、どうしようもない煩惱まみれの身ではあるけれども、本願念仏に照らされて、煩惱のあるまま喜ばれています。また、煩惱の起こるさまを見ては、お恥ずかしい、浅ましいと気づかせていただくことができます。それがまた、ありがたいのであり、もったいないのです。念仏者の日暮は「慚愧・歡喜・報恩」の繰り返し、循環と申せましょう。

二〇一五年法語カレンダー

「心に響く言葉」より